

インドで、鱗翅目の害虫 *Orgyia postica*, *Dasychira mendosa* や、グランドナッツアブラムシ *Aphis crassivora* などの代替餌植物ともなっている。

〔主要な文献〕 Anon. (1980) Firewood Crops. National Academy of Sciences, Washington, D.C., 44-45 pp.; PARROTTA, John A. (1992) *Gliricidia sepium* (Jacq.) Walp. Institute of Tropical Forestry, Puerto Rico, Tropical Silvics Manual, No. 50, SO-ITF-SM-50, 7 pp.; GLOVER, N., ed. (1989) *Gliricidia - Production and Use*. NFTA, 44 pp.

図書紹介

◎マレー半島の経済的生産物事典 (BURKILL, I.H.: A Dictionary of the Economic Products of the Malay Peninsula. Publication Unit, Ministry of Agriculture Malaysia, 3版 1993, 2巻 2,444 pp. 邦価約 6,000 円)

著者のアイザック・ヘンリー・バーキル (1870~1965) は、1912年から25年までシンガポール植物園の園長を務めた人物で、本書の初版発行は1936年になされた。イギリスが植民地の有用植物をまとめた事典としては、ワットの *Dictionary of the Economic Products of India* が有名であるが、本書はワットの事典を模範として記述されている。本書は東南アジアにおける有用植物事典の最古典として高い価値を持つ。1966年に増補改訂された第2版が出て、昨年の93年には第3版が出版された。最近になってマレーシアの農業省が再版を出したという事実が、この本の持つ時代を超えた有用性を物語っているといえるだろう。項目は有用植物のみでなく動物、鉱物にまで及ぶ。植物は学名で引くことができる。表題の通り「経済的生産物に関する事典」ということなので、動植物についての生物学的な知識が必要な人々にとっては少々物足りないかも知れない。しかし、この事典の本領は各事項の「経済的有効性」に関する記述にあるのである。木材・樹皮・果実の効用、栽培・加工の仕方、利用の歴史、生産と供給、貿易の状態など有用植物の記載内容はじつに多岐にわたっている。そして、その記述の克明さは圧巻である。「薬用」「染料」「食用」といった小見出しも豊富についており、読む側を大いに助ける。ただし、記述は1936年の出版時のままなので、利用する側はそのことを考慮に入れておく必要があるだろう。戦後あらたに見いだされた経済的効用については当然記載されていない。一つの「古典的名著」として座右に置くのは有効であろうが、実践的な事典として利用するには危険が伴いそうである。 (関 良基)